

# 北東北・北海道で花開いた豊かな縄文文化

遺跡見学会（10月14日）・北の縄文文化回廊フォーラム（15日）

本市では10月、市内の遺跡を中心として、北東北・北海道などで花開いた縄文文化について理解を深める取り組みが行われました。14日には市内の縄文遺跡の見学会、また15日には「ストーンサークルとマツリ」伊勢堂岱遺跡をめぐって」をテーマとした講演会・パネルディスカッションが市交流センターで開かれ、参加した考古学ファンらが、発掘調査の成果を知るとともに、北秋田地域の縄文文化の豊かさを実感しました。

## 今年度の調査ではじめて「竪穴住居」を確認！伊勢堂岱遺跡

10月14日に行われた発掘調査見学会は、市教育委員会と秋田県埋蔵文化センターの合同開催。今年度、北秋田市内では伊勢堂岱遺跡、橋場岱B遺跡、漆下遺跡、向様田A遺跡の4つの遺跡の発掘調査が実施されています。

見学会には、市民をはじめ県内外からおよそ40人ほどが参加、伊勢堂岱遺跡と森吉山ダム完成後に水没する小又川流域の3遺跡を巡りました。

伊勢堂岱遺跡は縄文時代後期前半（今から約4千年前）の遺跡。平成7年の調査開始以来、これまで、4つの環状列石や配石遺構など、多くの祭り・祈りの施設が見つかり、平成13年には国の史跡に指定

されています。

ガイド役を務めた市教育委員会の榎本剛治主任学芸員は、今年度行われた第13次調査では遺跡中央に位置する環状列石Cの西側平坦面を発掘、配石遺構、溝状遺構、50基以上の柱穴など、多くの遺構を確認したことなどを説明した上で、今年度の調査で初めて竪穴住居跡1軒が確認されたことなどを紹介しました。

## 加工された跡のある天然秋田杉が平安時代の地層から出土！橋場岱B遺跡

また、小又川流域の3遺跡のうち、市教育委員会が実施主体となって発掘調査を行っている橋場岱B遺跡は、縄文時代前期から晩期を中心とする遺跡。また、遺跡西側では今から約1千年前の十和田火山

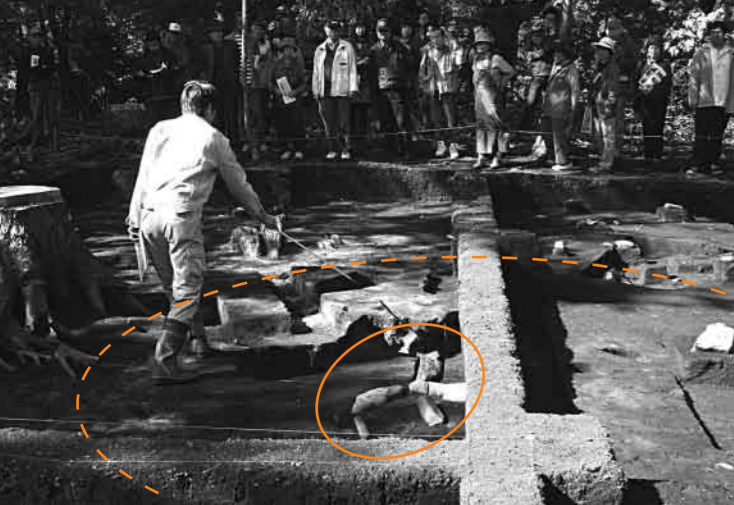
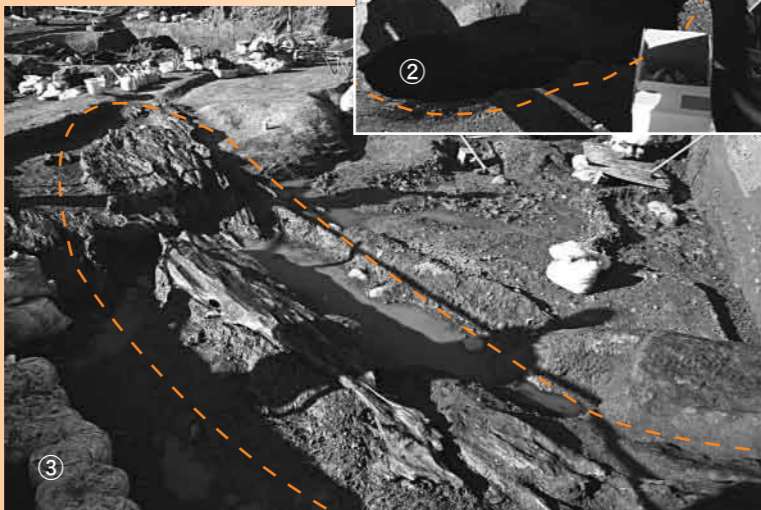
③平安時代の地層から出土した秋田杉の遺材。何らかの構造物で、一部は焼けていることから火災の影響を受けたものと考えられている

### 【①②③橋場岱B遺跡】

①縄文時代の落とし穴。けもの道に沿って複数の穴がジグザグに配置され、捕獲がかりやすいように巧妙に設計されている。発掘したこの穴に、うさぎやネズミがかかっていたことがあったという



②木の実などの食料を蓄えた貯蔵穴。説明員が持っているのは穴から出土した土器



### 【▲伊勢堂岱遺跡】

今年度の調査で初めて確認された竪穴住居跡。直径約4mの円周上に配置された柱穴と、その中心には火をたいた跡のある石囲炉（円内）が見つかった



### 【▲向様田A遺跡】

旗竿やトーテムポールのような太くて長い柱を立てたと思われる大型柱穴も見つかった

### 【▼漆下遺跡】

①不思議な形の配石遺構。全体が一組で、何らかのシンボルと考えられている（発掘当時）。②土坑から見つかった謎の石製品。



▼縄文文化について理解を深めた「北の縄文文化回廊フォーラム」。円内は、講演で「縄文文化は消費を中心とした豊かな文化だった」と説いた弘前大学の藤沼教授



（現在の十和田湖）が噴火した時に降り積もったと考えられる火山灰の層が見つかっています。現場では市教委の細田昌史主査が、この火山灰の層から出土した丸太材について、「年輪の目が密であることなどから直径1mほどの天然秋田杉と考えられる。また、加工された痕跡や、焼けて炭化した部分が認められることから、何らかの構造物で、火災の影響を受けたものではないか」などと説明、参加者は熱心にメモをとったり遺跡を写真に収めたりしていました。

## 「消費」を基本とした豊かな生活を送っていた縄文人！藤沼教授（講演会で）

また、15日に市交流センターで開かれた「北の縄文文化回廊フォーラム『ストーンサークルとマツリ』」伊勢堂岱遺跡をめぐって」では、縄文文化の研究者の講演や参加者を交えてのパネルディスカッションが行われました。

このうち、「ストーンサークルとマツリの道具」と題した弘前大学人文学部・亀ヶ岡文化研究センターの藤沼邦彦教授の講演で教授は、縄文遺跡から出土した祭祀や生活に使われた土器類などを紹介しながら、▽縄文人は安定した小さな社会を持続させるため、狩猟を基本に消費する社会を形成した。そのことで1万年もの間縄文時代が続いた▽ストーンサークルは、労働や祭りという「消費」のための施設だった▽優れた工芸品や記念物を作ることができたのも余剰生産物を持たず豊かな自然に身をまかせ、ゆったりと生活していたため、と説いていました。